



## 第73回日本病院学会に参加して

患者支援部 課長 三谷 直紀

9月21日(木)～22日(金)、杜の都、仙台において「第73回日本病院学会」が開催されました。

当院は、高松にて2014年に開かれた第64回以降、毎年多職種でチーム編成し参加してきましたが、ここ最近はコロナ禍の影響もあり、中止やオンラインでの開催となっていました。今回4年振りに多職種、総勢10名で参加してまいりました。

本会では「動的平衡・スクラップアンドビルド-その先にある病院のカたち-」をテーマに掲げ、2日間にわたってのシンポジウムや記念講演に加え、全国から400題を超える口演発表やポスター発表が行われ、熱気に包まれた会場の中、活発な議論や意見交換が行われました。

当院からは「透析」「職業環境」「プレアボイド」「院外広報紙」「病児保育」「同意書」「医療情報技師」「リハビリ」をテーマに看護部、薬剤部、放射線室、事務局、地域医療連携室より一般口演に6演題、ポスター発表に2演題を提出し、これまで取り組んできた活動や成果の報告を行うことができました。初めての学会発表となるスタッフもあり、半年以上の期間を準備に費やして意見交換をしながら磨きをかけ、日頃の成果を存分に発揮できたと思います。

日本病院学会の相澤孝夫会長のご講演の中で「その時代」の「その地域」の「その場所」に存在している自病院が果たすべき社会貢献(地域貢献)、役割りは何か? すなわち「自病院の存在意義を明

確に掲げ、病院組織としての一貫性を保ち地域社会と職員の『信頼』を醸成することが、組織活動において必要である。」と触れられていたことが深く印象に残っています。

今後の病院組織のあり方や業務における質の向上に大変役立つ多くの講演を拝聴することができ、有意義な学会参加であったと思います。



ポスター発表会場にて仙台・宮城観光PRキャラクターむすび丸と一緒に(むすび丸左横が筆者)

## 災害訓練を振り返って

医療事務部 外来課長 田村 真彦

9月2日(土)、昨年に続き南海トラフ地震を想定した全職種参加型の災害訓練を実施しました。

午後2時15分の院内放送を皮切りに、各部署による被害状況の確認、ライフラインの点検、Webシステムを用いた全職員の安否確認、トリアージの実施、EMIS(広域災害救急医療情報システム)による行政機関への報告(テストモードを使用)、模擬患者での安全確保と誘導、エアストレッチャーを使用した負傷者搬送、トリアージブース・臨時薬局の設置、デジタル簡易無線機(トランシーバー)を使用する訓練など、様々なタスクを実行しました。

災害対策本部については、事前の立ち上げ訓練、物品準備などが功を奏し、10分程度で立ち上げが完了しました。

各部署から提出された部署別状況報告書をホワイトボードへ転記し、その情報を基に負傷者の集計

と被災内容の分析を行い、今後の方針決定と一連の流れを実行しました。

参加した職員全員が、1年ぶりとは思えないほど迅速な動きではありましたが、指揮命令系統、情報分析などが機能していなかったなどの意見もあり、課題が残りました。振り返りシートの意見・感想欄には、議論百出しており、今後、改善出来るように病院全体で取り組んで行く必要があります。

30年以内に起こると言われている南海トラフ地震に限らず、昨今の大雨被害など、未曾有の災害はいつ発生してもおかしくありません。いざという時のために平時から準備をしておく必要があります。災害訓練を振り返って、反省点を活かし、改善点を取り入れ、より一層のレベルアップを図ることができ、有意義な時間となりました。



対策本部にて部署別状況報告を確認(左端が筆者)

### 【今回の災害訓練目標】

- ①災害対策本部の立ち上げ、情報収集、方針の決定を行う
- ②各部門で作成したマニュアルを基に訓練を行い、マニュアルの見直しと課題の抽出を行う
- ③関連部署で情報共有と患者誘導についての意見交換を行う
- ④関連部署で模擬患者の患者誘導を行うと共に、傷病者移送方法について検討する
- ⑤トリアージの設置と緑エリアの対応の流れについて確認する